

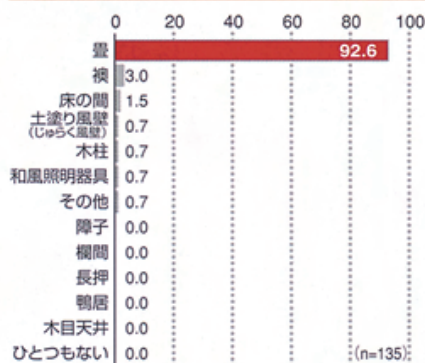
和室には、なにはなくとも「畳」が必要

今日、洋のスタイルが一般化する一方で私たち日本人の畳における原点・暮らしの習慣・座るという姿勢について考えてみましょう

1 和室を構成する最低限の要素は「畳」

いくら和モダンのインテリア雑貨を並べても、そこが畳敷きではなくフローリングの床であれば、人は和室とは認識しにくいようです。逆に床の間がなくとも畳が敷いてあれば和室であるとおとんの人が感じます。格式や鑑賞といった意味合いの強い床の間と比べると、畳の持つ意味合いはもっとベーシックなものようです。

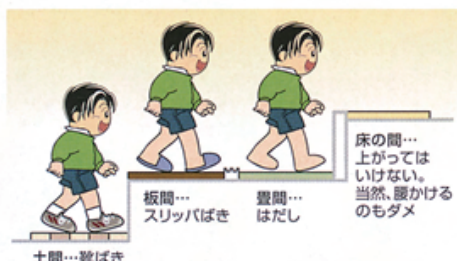
和室に最低限必要だと思う要素(1個だけあげた人)(%)



和室に必要な要素を1個だけあげると、「畳」と答えた人が9割強。

2 清潔でじかに座れる床は「畳」

いくら清潔に掃除した床でも、板間の場合じかに尻をついて座るには、ためらいが残ります。その点、畳なら何の抵抗感もありません。この差は日本人が持つ床に対する独特の精神性に由来しています。ひな壇にみられるように床の高さがそのまま威厳の表現となり、それが清潔度の高さを表すようになっています。例えば食べ物を落としたときを思い浮かべて下さい。テーブルなら、畳間なら、板間では、土間では…。又、畳にはじかに物が置けても、板間に洗濯したての衣類をじかに広げたり、たたんだりできません。



外部と土間では靴ばきで、板間上がるとスリッパに履き変え、畳に上るときはそれも脱ぐ、という靴めぎの習慣も「清潔」感覚によるもの。

資料協力：積水ハウス(株)総合住宅研究所 納得工房

3 日本人は、尻をついて座るとくつろぐ

ソファの上であぐらをかいて座ったり寝転んだり、ソファを背もたれにして床に座ったりする人が大勢います。なぜ、楽なはずのソファの上であえて座り直したり、背もたれにしてしまうのか。血流の関係で足が心臓の高さに近いほうが楽ということもありますが、無条件に日本人はゴロゴロ、尻をついて座った方がくつろげるのです。リビングのソファの前に「こたつ」が登場するご家庭も多いのではないのでしょうか。置き畳を利用したり、事前に畳コーナーを取り入れたりすれば、違和感なく和洋折衷のくつろぎ空間ができあがります。

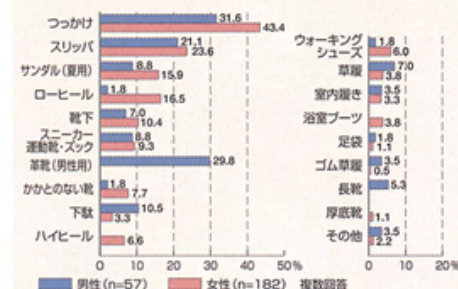


4 やわらかくて暖かい畳 固くて冷たいフローリング

自宅でスリッパをはいていますか?スリッパが好きな方はあまりいないのではないのでしょうか。では何故スリッパをはくのか。それは「床が固くて冷たい」からでしょう。近年、高齢者の家庭内事故死が交通事故死を上回り、「同一平面上での転倒」が問題となっております。やわらかくて暖かい畳は素足に適した素材で、万一の事故にも衝撃を吸収しショックを和らげます。最近では廊下に薄い畳を敷きつめて段差をなくす逆バリアフリー施工も注目されています。

高齢者の記憶に残る転倒・転落のうち2人に1人は履き物が原因

記憶に残る歩行中の転倒・転落で原因となった履き物



出典：東京都生活文化局 平成13年度高齢者危険危険情報分析調査

お部屋の用途で
畳を選ぶ。